

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	公園・緑地美化意識の醸成事業							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	都市計画課	係	都市施設係	評価票作成者	公園緑地担当係長 花木喜久治
1-3 総合計画における施策の体系	節	生活環境 「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」			基本施策	公園・緑地	コード	1 2 2
					単位施策(中)	維持管理	コード	1 2 2 2
	項	水と緑の環境づくり			単位施策(小)	公園・緑地美化意識の醸成	コード	1 2 2 2 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市民		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするか)	市民に地区の公園・緑地に愛着を持ち美化を意識をさせる。			
1-5 事務事業の内容	各行政区に公園の広場の草刈やごみ拾い等の維持管理をお願いし、町内会等で共同清掃作業を実施し、その中で公園・緑地への美化意識を養っていく。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識							
	平成18年度	住民主体で地域の公園を維持管理することにより愛着がわき、悪戯等による施設の破損が減る。	地域のシンボルとしての公園に対する地域住民の意識が薄れ、ごみの放置、落書き等も多くなっている。	地域住民の意識の薄れからくるごみの放置や落書き等により公園に暗いイメージを作ってしまうので住民に美化意識を養っていただく必要がある。	平成19年度	"	"	"	平成20年度	市内全体の公園が均一に美化されるよう、地区代表者に管理委託業務の実施を徹底する。	"	地域住民自ら清掃ボランティア、施設の補修等を実施し、地区公園として愛着を持っている。
平成21年度	"	特定の公園で器物破損が多く、警察に被害届を提出することもある。	"	平成22年度	地域住民によりボランティアで清掃活動したり、施設の補修は行政が行う等行政と地元地区との協働により、美しい公園を保つことができた。一方で、特定の公園で器物破損が多く、警察に被害届を提出することもある。	一部公園においては継続的に汚される状況があったが、地元役員による協力や回覧による啓発の効果により改善された。	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
平成26年度				平成27年度								
2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名			前期目標値(公園)	後期目標値(公園)	指標の説明						
	公園・緑地美化意識の醸成実施公園数(公園)			57(公園)	57(公園)	市内57公園の全てにおいて当該事務事業が満たされることをめざし目標値とし、その箇所数を指標とした。						
2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(単位)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	直接事業費 b(千円)	56(公園)	57(公園)	57(公園)	57(公園)	57(公園)	57(公園)					
	人件費 c(千円)	2,859	2,893	2,893	2,893	2,893	2,849					
	合計コスト d(b+c)(千円)	402	400	397	387	376	368					
	単位コスト d/a(千円)	3,261	3,293	3,290	3,280	3,269	3,217					
	単位コスト d/a(千円)	1公園当たり 58	1公園当たり 57	1公園当たり 57	1公園当たり 57	1公園当たり 57	1公園当たり 56	当たり	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 直接事業費は各行政区と契約している公園管理委託の契約金額の合計である。人件費は係総事業費(3人分)の4割の内5%とした。

2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績（公園）	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		後期目標値に対する達成度（％）	56	57	57	57	57	57	57		
		98.2	100	100	100	100	100				

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分析)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度 担当課評価	A	A	A	A	A	A				

- 4 段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性（必要な事務事業であるか）
 公共性（公が実施する意味があるか）
 妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
 効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
 有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
 市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

3 - 2 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
		平成18年度	公園の維持管理費の予算が減少してきているので、今更以上市民協働が求められる。	履行状況が行政区によってばらつきがあるので、指導及び支援することで改善する必要がある。
平成19年度	〃	美化意識のばらつき改善。	地元区からの要望に可能な限り早急な対応を心がけ、市民に安心満足感を提供している。	
平成20年度	限られた予算内でより一層、市民と協調して公園の美化を図る。	履行状況が行政区によってばらつきがあるので、指導及び支援することで改善する必要がある。	公園清掃後のごみ回収時の袋詰め徹底及び自主回収。	
平成21年度	多くの市民の参加を求め、地域の公園の美化を図る。	地元区と連携をとり公園に愛着が湧く様支援する。	地元区からの要望に可能な限り早急な対応を心がけ、市民に安心満足感を提供している。	
平成22年度	地元区からの要望に可能な限り早急に対応し、市民に安心満足感を提供することができた。履行状況が行政区によってばらつきがあるので、指導及び支援することで改善が必要である。			
平成23年度	公園内のゴミの散乱状況には公園によりばらつきがある。状況の悪い公園については地元の協力を得るように行動を起こす必要がある。			
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
		平成18年度	A
平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度	A	継続して事業を進めること。	
平成22年度	A	継続して事業を進めること。	
平成23年度	A	継続して事業を進めること。	
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			